

第2学年3組 国語科学習指導案

日 時 令和元年10月24日

場 所 2年3組教室

授業者 羽生田 芽依

生 徒 男子12名 女子13名 計25名

1 単元名・教材名

地球の未来の話をしよう ～根拠を明確にして、自分の考えたことが伝わるようにまとめよう～
「モアイは語る―地球の未来」安田喜憲（光村図書2年）

2 単元目標

(1) 事実の提示と、事実から導かれた意見が重層的に繰り返され、筆者の主張に結びつく論説文の構造を理解する楽しさを味わうことができる。

【関心・意欲・態度】

(2) 結論に着目して本論を読み取り、筆者の「私たちの住む地球の未来のために、限りある資源を効率的に利用すべき」という主張を、その根拠とともに捉えることができる。

【読むこと】

(3) 筆者の主張をふまえて地球の未来について自分の考えを持ち、自分の考えを裏付ける根拠との結びつきを確かめ、文章にまとめることができる。

【書くこと】

3 教材について

本単元では学習指導要領の第2学年「C 読むこと」の「オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広めたり深めたりすること」を目標に学習内容を構成できる教材である。

論説は、筆者の主張が論理的に述べられた文章である。筆者の主張は「私たちの住む地球の未来のために、限りある資源を効率的に利用すべき」ということである。しかし、この主張は結論に至るまで分からない。「君たちはモアイを知っているだろうか。」で始まり、突如イースター島のモアイ像を取りあげる。モアイを通して語られているのは“人口の増加”や“森の消滅”、“食糧危機”による、ひとつの文明の崩壊である。そして、結論になって初めて「イースター島のこのような運命は、私たちにも無縁なこと」ではなく、これから訪れるかもしれない地球の姿に気づかされるのである。

まずは筆者の主張を捉え、その主張がイースター島の運命とどのように結びついているのかを検証していくことが大切である。次に、本単元の①事実・事例→②理由づけ→③主張という論の展開に着目して、説得力のある文章の構造になっていることに気付かせたい。最終的には既習事項から得た知識を活用し自分の根拠を明確にして、自分たちの未来について考えたことをまとめることができるようにしたい。

4 生徒について

本学級の生徒にアンケートを実施した（在籍生徒 25 名中、回答 24 名。欠席 1 名）。以下がその結果である。

《アンケート結果》 A…とてもそう思う B…どちらかと言えばそう思う C…どちらかと言えばそう思わない D…まったくそう思わない

	A	B	C	D
国語は得意だ。	0	8	12	4
国語の勉強は大切だ。	15	6	3	0
教科書の説明的文章は好きだ。	2	9	7	6
自分の考えを相手に発表することは好きだ。	2	5	8	9
自分の考えを相手に発表することは得意だ。	1	3	11	9
話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり広めたりできる。	4	14	4	2
国語の授業で習ったことと、他の教科で習ったことを関連づけて考えられる。	0	9	12	3

授業中は自分の思ったことを素直に表現することに意欲的である。国語に限らず道徳や学級活動での話し合いを通して自分の考えを深めたり広げたりすることができたという実感を持っている生徒が多い。

一方で、発表することが好きではあるが得意ではないという回答をする生徒も見られた。得意ではないという回答をした理由として「自分の考えがまとまらない」や「どのように説明すればいいのかわからない」「順序よく話せない」などを挙げている。相手に伝わるように話さなくてはならないという不安な気持ちが強いので、話し合いの場が苦手だと感じる生徒が多いと思われる。また、国語の授業の必要性を多数の生徒が感じているものの、実際に他教科で習う項目との関連性を実感する機会は少ない。今回の授業を通して、生徒が自分の考えを文章にしたり発表したりすることに対して自信を持つこと。そして、他教科との結びつきを実感しながら国語の大切さに気付く機会となるように取り組ませていきたい。

5 指導にあたって

研究全体テーマ 課題の解決に向けた対話を通して、ものごとに対する見方や考え方が広がったり深まったりしたことを自覚している力を育成する。

国語における授業づくりのポイント

視点1 主体的な学びにつながるための、単元を貫く課題意識

視点2 根拠をあげて意見を言うことで得られる、学びの深まりに対する客観的評価

国語における授業づくりのポイントを、上記の二点とした。なお、学びの深まりについては、本単元では「自分の考えとそれを裏付ける根拠の結びつきを確かめること」と捉える。この学びについて、振り返りの場面を効果的に位置づけることで自分の学びを確かめる場を設定する。

【視点1 主体的な学びにつながるための、単元を貫く課題意識】

本単元は筆者が「地球の未来」に起こる問題を取りあげ、「人類の生き延びる道」をかけて有限の資源を効率かつ長期的に利用する方策を考えるように提言を行っている。では私達は、筆者の考えをどのように理解し考えたのか。今回は最初から筆者の主張を把握し、常に自分はどう考えるかを問い続ける

授業構成としていきたい。

【視点2 根拠をあげて意見を言うことで得られる、学びの深まりに対する客観的評価】

本時では、課題の解決に向けた対話を「自分の考えと根拠との結びつきをより明確にする場面で、少人数による交流」とした。選択した資料を根拠として自分の考えを相手に説明する活動を通して、「既習事項と結びつけて考えることができる」と「自分の考えと根拠が相手に明確に伝わるように、内容を検討することができる」ことを達成できるよう見届けたい。相手に発表することで自分の論の弱さや不足部分を補ったり根拠としての妥当性を検討したり、評価してもらうことで「できる」という自信をつけたりできるようにしたい。なお、ここで述べる考えとは「資料から分かる事実をもとに、自分なりの考察を行うこと」を指す。

6 単元の指導と評価の計画（6時間）

時間	学習活動	指導上の工夫・配慮（○）	評価規準（●）【指導方法】
1	筆者の主張を理解し自分の考えを持つ。	○題名と結論の結びつきを理解し、筆者の主張を確認する。 ○筆者の主張をもとに、他の教科で学習してきたことで生かせる根拠がないか考える場面を設ける。	●結論から筆者の主張を探し出し、自分の生活との関わりを考えることができる。【観察】 ●筆者の主張を既習事項と関連づけることができる。【振り返りカード・発表】
2	結論をもとに、本論から筆者の主張の根拠を探す。	○問題提起・根拠・その場の答えを教科書から探し出し、必要な部分に線を引くことで筆者の主張との結びつきを確認する場面を設ける。	●問題提起・根拠・その場の答えを教科書から探し出し、必要な部分に線を引くことができる。【観察】 ●結論と本論との関わりに気付くことができる。【ワークシート・観察】
3 4	筆者の主張をふまえて、自分の考えを根拠を明らかにしてまとめる。	○本論と結論にある筆者の主張との結びつきを再度確認し、根拠を振り返る場面を設ける。 ○自分の考えを裏付ける根拠を資料から探し出し、まとめる場面を設ける。	●筆者の主張を根拠とともに的確にとらえることができる。【観察】 ●根拠を明確にして、自分の考えたことをまとめることができる。【ワークシート・観察】
5 【本時】	自分の考えと裏付ける根拠との結びつきを確かめる。	○グループ内で検討し、自分の考えと根拠の結びつきをより明確にする場面を設ける。	●自分の考えと根拠の結びつきを明らかにして、相手に明確に伝わるように発表することができる。【ワークシート・観察・発表】
6	地球の未来について根拠を明確にし、自分の考えを書く。	○根拠を明確にした文章を書き、確認する場面を設ける。	●自分の考えと根拠の結びつきが明確な文章を書くことができる。【ワークシート・観察】

7 本時の指導

（1）目標

地球の未来についての自分の考えと、それを裏付ける根拠との結びつきを確かめ、文章を書くためのメモを推敲することができる。【書く】

(2) 指導過程

時間	学習活動 ○おもな発問と△指示	・予想される生徒の反応	□指導上の工夫・配慮
導入 3分	1 前時の確認。 △安田さんの主張の確認をしましょう。 2 本時のめあてをつかむ △「地球の未来」について、準備した資料を整理して発表しましょう。	・私たちは、今あるこの有限の資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を考えなければならない。	□プリントを使って、筆者の主張を確認する。
めあて：自分の考えと裏付ける根拠との結びつきを確かめよう。			
展開 40分	3 発表内容を検討する。 ○結びつきを確かめるのに大切なことはなんですか。 △グループでメモを参考に説明しましょう。 △聞き手は三つのポイントについて口頭で評価とアドバイスをしましょう。 △話し手は、聞き手からのアドバイスをメモしましょう。 4 発表内容を再度検討する。 ○なぜ、結びついているといえるのですか。 △評価やアドバイスをもとに、加筆・訂正しましょう。	・読み取った根拠（事実）が自分の考えを確実に導けるものであるか確認できること。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>【三つのポイント】</p> <p>①自分の考えが明確か。</p> <p>②考えを裏付ける根拠が明確か。</p> <p>③考えと根拠の結びつきが適切か。</p> </div> 結びつくとは、「(事実) だから (自分の考え) である。」と言い切れること。 ・資料からわかる○○の問題点を自分の考えで指摘しているから。 ・資料から分かったことを取りあげること、自分の考えに納得がいくから。 ・選択した資料がすべて同じ○○について述べられているから。	□評価の観点を明示し、自分の考えに何が不足しているのか項目ごとに確認できるようにする。 □できる生徒については、より説得力をもたせるため内容の提示方法についても考えるようにアドバイスする。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>メモに必要な内容</p> <p>【資料の出典・分析】</p> <p>・(資料) によると○○とあります。</p> <p>【資料から分かること】</p> <p>・つまり、○○ということです。</p> <p>【自分の考え】</p> <p>・○○と言えるのではないのでしょうか。</p> <p>・地球の未来のために○○しなければならない</p> <p>・安田さんの「(引用)」の通り、○○ではないのでしょうか。</p> </div>
まとめ 7分	5 振り返る。 △今回の交流を通して得たことを、振り返りカードに記入しましょう。	・自分の考えと選択した資料の結びつきが出来ていれば、思ったことが明確に伝わる事がわかった。 ・資料の読み取りと自分の考えの結びつきが曖昧だったので、なかなか相手に自分の考えを理解してもらうことができなかった。再度資料の選択をする必要がある。	評価：自分の考えと裏付ける根拠との結びつきを確かめることができる。 ※評価規準

※評価規準

A：自分の考えと裏付ける根拠との結びつきを客観的に確認し、推敲できる。

B：自分の考えと裏付ける根拠との結びつきを確認することができる。

→Cの生徒について、、モデルを表示し、実際に「自分の考えと裏付ける根拠とが結びつく」とはどういうことなのかを確認できるようにし、次回の授業までに整理できるように示す。

8 成果と課題

【視点1 主体的な学びにつながるための、単元を貫く課題意識】に関わって

○「地球の未来について、自分はどうか考えたか。600字の文章を書く。」というゴールを明らかにしたことで、生徒が今何をすべきなのかを考えることができた。

○資料を教員があえて提示せず、キーワードをもとに生徒自身に委ねたことで熱意をもって根拠を集めようという姿勢が見られた。

▲生徒が選んだ資料の内容が、自らの主張にそぐわないものであった。

→資料を選択することや、正確に読み取ることに対する教員側のサポートがあってもよかった。

【視点2 根拠をあげて意見を言うことで得られる、学びの深まりに対する客観的評価】に関わって

○三つのポイント提示と文章のモデル提示があったことで、生徒は「何をどのように評価するのか」を理解して交流に臨むことができた。

○交流によって、考えと根拠との結びつきについて「自分の文章はどうであったか」気付くことができた。

○客観的な評価を受けて、“結びつき”“根拠”“自分の考え”という言葉を使用し、「自分には何が足りなかったから次はこうする」といった具体的な振り返りができた。

▲生徒の考えが自分にできることや、実行できることでないものもあった。

→今回は考えを根拠の結びつきに着目して授業を行ったが、内容の正確性については教員がどこかの段階で確認していく場面が必要。ただし、今後他教科で学習していくことで生徒の考えも変わってくると思われる。